

「おいものかぞく」

路谷 玲雅（ふきたに れいが） 5歳

明教保育園（長崎教区）

所狭しとばかりに画面には色とりどりのお芋が描かれています。それぞれに、形や大きさも異なっています。これらのお芋さんたちの間を縫うように、蔓や葉っぱも迷いのない筆使いで伸び伸びと描かれています。そのひとつひとつには、パスで個性的な表情が描かれています。玲雅さんは「これがママで、僕で、パパで、にいで……」「みんなで遊んでいる」と嬉しそうにお話をしながら描いていったそうです。

4〜5歳くらいの幼児は、実際の経験を通して感じたり、気づいたりしたことを素直に描きながら、それらの特徴から想像を広げて何かに見立てたり感情移入することができるようになります。『おいものかぞく』というテーマは、こうした年中さんらしい共感性を引き出し、大きさや形の違うお芋を家族に見立て、いのちのつながりを感じながら豊かに想像を広げて表現する遊びへの入口となったのです。

●表紙のことば●



おおはし いさお
大橋 功

和歌山信愛大学